

令和8年度 教育指導の重点及び学校経営計画

学校番号	5208	学校名	中津高等学校（定時制）
------	------	-----	-------------

社会的役割等 (スクール・ミッション)	生徒の多様性を尊重し、生徒の学びを保障する定時制高校として 確かな基礎学力を身に付け、誰一人取り残さないきめ細かな教育的支援を通して 自立した社会人の育成を目指す学校		
学校教育目標 (教育方針)	1 人間尊重の精神を基調として、生徒一人ひとりとの心のふれあいを深め、信頼と愛情に基づく教育実践に努める。 2 勤労生徒としてのたくましい心身と強い責任感を高揚し、民主的社会の担い手として調和の取れた人間性豊かな生徒を育成する。		
3つの方針 (スクール・ポリシー)	どんな生徒を 育てたいか 【GP】	<ul style="list-style-type: none"> 基礎学力と生きる力を身に付けることで、自信をもって自らの人生を切り拓くことのできる生徒 協同を通して他者との信頼関係を築きながら、一歩前に踏み出せる生徒 様々な参加機会を活用して自らの役割を理解し、家庭・地域・社会の担い手となる生徒 	
	生徒をどう 育てるか 【CP】	<ul style="list-style-type: none"> 一人ひとりの興味・関心能力・経験等に合わせ学びの楽しさを育む授業の工夫と基礎学力指導 少人数でアットホームな学校生活の中で自己効力感や信頼関係を育む学校文化の維持・発展 様々な学校行事や就労体験を通じた自己有用感の育成 	
	どんな生徒を 待っているか 【AP】	<ul style="list-style-type: none"> 自らの課題に対して4年間努力して前向きに取り組もうという意志のある生徒 仲間や教師など他者との信頼関係を築き、自らの可能性を広げたいという生徒 卒業後の進路を見据え学業と就労の両立を図り、学校行事に積極的に参加しようとする生徒 	
学校の抱える課題	<ul style="list-style-type: none"> 小学校や中学校からの不登校や登校渋りの生徒が多く、中学校までの基礎的な学力が十分に定着していない。 対人関係やグループ行動、集団が苦手、他人とのコミュニケーションが上手くとれない生徒が多い。 将来の見通しがもてず、自分のキャリアデザインを描くことができない生徒が多い。 親子関係が良好でない家庭が多く、生徒と十分な信頼関係が構築されていないため、学校と家庭の連携が十分に機能しない。 学校行事や会議等への保護者の参加率が低い。 		
教育指導の重点	領域・分野	今年度の具体的な重点目標	
	学校経営	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の安心・安全を確保し、生徒一人ひとりの発達特性に応じて寄り添った支援を行いながら自立と社会参加を目指す。 保護者や地域に向けて、学校経営や教育活動を積極的に情報発信していく。 「教職員の働き方プラン2026」を推進し、業務分担の標準化による業務量の管理やハラスメント防止を推進し、職場環境を良好にしていく。 	
	学習指導	<ul style="list-style-type: none"> 生徒個々の理解度を確認したうえで、「学び直し」の要素を取り入れ、個々の理解度に応じた学習支援を心掛け、基礎学力の定着を目指す。 生徒の興味・関心を高め、学習の定着を図るため、ICT機器を効果的に活用する。 	
	生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> 毎日の職員連絡会において生徒情報を共有し、職員の共通理解を図るとともに、綿密な教育相談を行いながら個々の生徒の指導・支援を行う。 生命尊重の理念に基づき、安全教育の徹底を図る。また、生徒主催の学校行事等での協働を通して、自己理解や他者理解を促し、社会性を育成する。 	
	進路指導	<ul style="list-style-type: none"> 生徒自身が自己の能力・適性を理解し、主体的に進路選択ができる能力を育成する。 生徒の社会的自立ができるよう進路相談を充実させ、個々の生徒の進路目標の達成を図る。 	

年度目標				年度末評価(自己評価)			
領域分野	3つの方針・具体的な重点目標の達成に必要な 具体的取組・方策	県教育振興 基本計画での 位置付け	達成度の判断・判断基準 あるいは評価指標	取組状況・実践内容 評価項目の達成状況等	評価 A. B. C. D	成果と課題	総合 評価 A. B. C. D
学校経営	すべての教育活動において個々に応じた丁寧な支援体制を推進していることや教職員の働き方改革について保護者や地域の方にも周知していく。	施策IV-20	・生徒・保護者アンケートの調査結果				
	・生徒一人一人がかげがえのない存在であることを認識し、学校行事等を通して自己有用感や自己肯定感を醸成する。	施策I-1	・勤次郎やエントリーシート、ストレスチェックの結果				
	・HPやすぐーる等を活用し、保護者や地域に向けて適切で分かりやすい情報発信を行う。また、学校行事を通して保護者や地域の方が参加できる機会を設ける。	施策I-7	・不祥事防止や情報セキュリティ等各種チェックシートの回答状況				
	・ハラスメント防止のための職員研修を通して、コンプライアンス意識の向上に努める。また、勤務時間制度を活用した柔軟な働き方改革を推進する。	施策IV-28					
学習指導	・誰一人取り残さない学びの機会を確保するため、一人一人の学習ニーズに応じた学びを提供し、基礎学力を育成する。	施策IV-23	・生徒・保護者アンケートの調査結果				
	・「個別最適な学び」と「協働的な学び」を支援するために、ICTを積極的に活用し、生徒の主体的・対話的で深い学びの実現を図る。	施策II-9	・生徒による授業評価を実施し、満足度やコメントによる評価				
	・日々の授業を通して生徒の学力伸長に取り組めるように教科の専門性向上を目指す。	施策IV-26	・教員の自己評価アンケート				
	・外部講師を活用して主権者教育・消費者教育の充実を図り、社会生活能力を育成する。	施策II-12	・各種事業実施後のアンケート結果や感想				
生徒指導	・生命尊重の理念に基づき、外部機関から講師を招き、健康、安全、防災等の意識向上を図る。	施策III-19	・生徒・保護者アンケートの調査結果				
	・個人面談や教育相談等を通して、個々の理解に努め、共通理解のもとに必要な支援を行う。	施策I-3	・各種事業実施後のアンケート結果や感想				
	・学校と地域、家庭との連携を強化することで、生徒の安全・安心な居場所づくりに努める。	施策I-7	・心のアンケートの結果 ・いじめ調査の結果				
	・部活動や生徒会活動等を通して、生徒一人一人が充実した学校生活を送れるように支援する。	施策I-1					
進路指導	・インターンシップ等の職業体験活動やアルバイト等の就労への積極的な参加を促す。	施策II-14	・生徒・保護者アンケートの調査結果				
	・生徒・保護者が必要とする進路情報を提供し、担任と連携して進路相談ができるような支援を行う。	施策I-7	・進路ガイダンスの感想				
	・地域の産業界の方や当校の卒業生と積極的な情報交換を行い、自身の職業観を明確にし、自分の進路適性について考える機会を提供する。	施策II-13	・インターンシップ参加者の感想				
	・進路ガイダンスを実施し、将来の自己の在り方や生き方について主体的に考え、進路決定に一歩踏み出せるよう支援する。	施策II-13					

来年度に向けての改善方策等

実施日：令和9年 月 日 学校関係者評価

実施日：令和9年 月 日